



平成3年を基準(100)とした指数

		3年	13年	23年
着工全戸数	岡谷市	100	84	40
	諏訪市	100	51	28
	茅野市	100	55	28
内持ち家	岡谷市	100	98	68
	諏訪市	100	106	73
	茅野市	100	82	58
内貸家	岡谷市	100	94	19
	諏訪市	100	54	8
	茅野市	100	52	14

A 人口急増の茅野市、減少一途の岡谷市、横ばいの諏訪市

近年は、3市揃って人口減少期に入りました [図-3]

* 3市はいずれも5万人台の規模で、その合計人口はここ20年概ね16万人前後で推移してきました。諏訪全域人口が減少期に入るなかで、近年はいずれの市も人口減少期に入り、その中で高齢者人口の増加と子育て世帯人口の減少がすすんでいます。

B 3市合計着工数は20年間で70%も減少、貸家は激減、持ち家は半減 [図-1]

- * 3市の合計着工戸数は平成3年に2,779戸あったのが、平成23年には70%減少して、832戸になりました。近年の5年間をみても減少したままの横ばい状態です。
- * 貸家の減少が特に著しく、平成3年の1,222戸から88%も減少し23年には148戸になりました。
- * 持ち家の減少は貸家より少なく20年間でほぼ半減といった所です。人口減少期になっても、この20年間の岡谷市に見られるようにある程度の持ち家着工はなくなりません。
- * 分譲住宅も20年間で激減しましたが、近年は市街地に分譲マンションの建設がみられます。

C 茅野市と諏訪市では着工数が激減 [図-2] [表]

- * 岡谷市は人口減少のなか貸家が少なかったため、全体として60%の減少に止まりました。
- * 諏訪市は水田地帯の商業地化と住宅地化で人口横ばいながら着工戸数が多かった。平成3年に約半数を占めていた貸家が激減し、着工全体としては72%も減少しました。持ち家の着工はほぼ岡谷市と同じレベルで推移しあまり多くありません。
- * 茅野市は人口急増期における持ち家着工の多いのが特徴で、他の2市に比べ2倍前後ありました。しかし近年の持ち家の減少率は3市の中では一番大きく、平成3年に多かった貸家と分譲も激減したため、着工全体としては諏訪市同様に72%もの減少になりました。

C 利用関係別の着工数についての考察

